

TURN LAND「手のプロジェクト2020 ー綿花から糸へ..ー」 新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

本ガイドラインは、「手のプロジェクト2020 ー綿花から糸へ..ー」の開催において、プログラムを実施するにあたり、新型コロナウイルスの感染予防対策としての基本事項を整理したものです。本ガイドラインの内容は、今後、感染拡大の動向や専門家の知見をふまえ、適宜改訂していきます。

1、施設(講師を含む)の感染予防対策について

- プログラム実施日の朝には、施設スタッフおよび事業従事者は必ず検温を行う。
- マスク着用や手洗い消毒を徹底する。
- 当日、参加するスタッフは、以下の症状・条件に一つでも当てはまる人は従事しない。
 - 発熱(37.5度以上、平熱比+1度以上)・咳・下痢等の症状・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさがある場合
 - 2週間以内に発熱(37.5度以上、平熱比+1度以上)の症状がある場合
 - 軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある場合
 - 新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触(最終接触から14日間以内)がある場合
 - 同居家族や身近な知人が新型コロナウイルス感染が疑われる(37.5度以上もしくは平熱比+1度以上の発熱・咳・下痢等の症状がある)場合、及び過去14日以内に海外から帰国した者
- プログラム実施中は、非接触型の体温計、マスク、消毒液等を常備する。
- 定期的に会場の換気を行う。
- 参加者同士の社会的距離(2メートルを目安に、最低でも1メートル)を、可能な限り確保する。
- 当日プログラムの責任者を明確にする。
- 厚生労働省及び保健所等が定める予防対策の確認を済ませている。
- 施設スタッフ及び参加者の氏名及び緊急連絡先を把握し、名簿を作成する。参加者に対しては、取得した情報を必要に応じて保健所等の公的機関へ提供することを事前に周知する。
- プログラム開催時は、使用する施設管理者が定めている施設の消毒や感染対策を徹底する。
- 本ガイドライン及びこれを踏まえた現場の対応方針を、全員に周知徹底を図る。
- 施設スタッフおよび参加者に感染が疑われる場合は保健所の聞き取りに協力し、必要な情報提供を行う。

2、参加者の感染予防対策について

- 当日、会場参加する参加者は、以下の症状・条件に一つでも当てはまる場合は参加を見合わせる。
 - 発熱(37.5度以上、平熱比+1度以上)・咳・下痢等の症状・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさがある場合

- 2週間以内に発熱(37.5度以上、平熱比+1度以上)の症状がある場合
 - 軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある場合
 - 新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触(最終接触から14日間以内)がある場合
 - 同居家族や身近な知人が新型コロナウイルス感染が疑われる(37.5度以上もしくは平熱比+1度以上の発熱・咳・下痢等の症状がある)場合、及び過去14日以内に海外から帰国した者
- 持病のある方は、感染した場合の重症化リスクが高いことから、事前に事務局にその旨を相談すること。
 - 会場ではマスクの着用、咳エチケット、手洗い、手指消毒を徹底する。
 - 会場にて、非接触型の体温計にて検温し、体調を名簿に記入する。取得した情報は施設にて3週間保管し、必要に応じて保健所等の公的機関へ情報を提供する。
 - 社会的距離(2メートルを目安に最低でも1メートル)を、可能な限り確保する。

3、感染が疑われた場合

- 施設スタッフおよび事業従事者並びに参加者より感染の連絡があった場合、事業を一時的に中断し、施設は直ちに、施設管理者、参加者、NPO法人アーツエンブレイスの担当者に連絡する。
- 感染が疑われた参加者と接触の可能性のあるスタッフは、自宅待機とする。
- プログラム終了後に、体調の不良を感じた参加者がいた場合には速やかにNPO法人アーツエンブレイスに連絡する。